

## 飯島 東先生の御退官によせて

松本 良（地質学教室）

「日本海開口と第三紀堆積盆の発展—とくに中新世珪質堆積物との関係」というテーマで最終講義をすまされたあとも、学位論文の指導や執筆中の論文のデータ集め、各種委員会への出席など、飯島先生はいつもと変わらぬお忙しい毎日を送っておられます。しかし、別刷りのボックスがいつものまにか空になっていたり、書棚がすいてくるなど、研究室にも少しずつ変化が見えてきて、先生がいよいよ御退官になるという事が実感されてきました。

先生は、1951年に地学科に進級されて以来40年の長きにわたり、地質学の研究と教育にあたってこられました。この間に、地質学をとりまく環境は大きく変わり、また地質学自体も大きな変化を遂げてきました。このような変動期にあって、先生は堆積岩の岩石学的研究に本格的に取り組まれ、自らの足で集められた膨大な野外データ、数千枚にのぼる岩石薄片の観察ノートなどに基づき、日本に堆積岩岩石学の学派を打ち建てられました。最近の10年間に限ってみても、81年にはIGCPプロジェクト115のリーダーとして太平洋域の珪質堆積物に関する国際会議を開き、85~87年には「総合研究A」として、日本の第三紀珪質頁岩層の研究をリード、89年には、新第三紀珪質堆積物に関する日米科学セミナーを組織してこられました。最近では、89年に行われた日本海の深海掘削で得られた試料の研究にもたずさわられ、最終講義はそのような最新知見をも含めたものでした。

学会・協会の会長や評議員などで多忙を極める中でも御研究のテンポは衰える事なく、しかもそれらを苦もなくやっておられる様に見えました。しかし見えないところでは並々ならぬ御努力をされていたのだろうと推察致します。そのように、気魄をもって研究に向かわれていたお姿は、大学における研究者の使命についての暗黙のメッセージのように感じられます。

東大紛争のあと、私が6ヶ月遅れて地質学教室に進学してきたのは丁度20年前ですが、麻雀をやらぬ私は、はじめ「イートンさん」とか「トンさん」と親しみを込めて呼ばれる先生と、若くエネルギーな飯島 東助教授が別人だと思ひ込み、危うく大失敗をすところでした。今でも弟子の間ではそのように呼ばせて頂くこともありますが、学生ではこの「名前」を知らない人も増えてきたようです。講座談話会での学生に対する質問やコメントは大変鋭く厳しいものです。準備不足で談話会に臨んだり、証拠不十分なのに新発見をしたというような報告に対しては核心を突いた鋭い質問が飛びました。先生は常に、一字一句おろそかにしない論理的厳密さを求め、そのような厳しさは、共著論文を準備している時など特に強く感じ、また多くのことを教えられました。

日頃から、「地質学の基礎は野外調査にある」と言われてこられ、御自身もよく出かけ、また歩くことを楽しんでおられます。82年の冬、講座のほぼ全員が参加した房総半島、嶺岡山地での調査は

特に楽しいものの一つだったと思います。数人ずつのグループに分かれ、山狩りをするように数ルートを調査し、昼は陽だまりで弁当をとりながら、それぞれの結果をつき合わせて午後の作戦をたてる、というような調査が、鴨川の舟宿をベースに約一週間続けられました。合宿の途中、クリスマスには、学生の一人が町までクリスマスケーキを買いに行き、地酒とビールと夕食のおかずの残りでクリスマスパーティーになってしまいました。先生御自身はお酒を沢山飲むという事はありませんでしたが、このような集まりを大切にされ、また雰囲気を楽しんでおられました。

先生は東大バレーボール部が強かった頃の名アタッカーと聞いております。教授になられてからは長くバレーボール部の部長を勤められ、また運動会の理事も今年で11年目ということです。試合の応援に行ったあとなど、よく、「今のバレー部は全くだらしがない」と嘆きつつも、試合の様子を楽しそうに話される事もありました。バレーと言えば、理学部長杯争奪戦での先生御自身の御活躍

が思い出されます。争奪戦のきまりによりチームには女性または講師以上の教官を含めなくてはなりません。そこで先生に登場をお願いしたところ、「最近は何もやっていないから」と言いながらも快く引き受けて下さり、本来は「ウイークポイント」と想定されている教官メンバーが逆に大活躍をして相手を圧倒し、地質チームに勝利をもたらしました。このように地質学研究一筋ではなく、多方面に興味を持っておられた事が、むしろ先生の学問・研究に向かうエネルギーの源であったのだろうと思えてきます。

理学部がそうであるように、地質学教室も、地質学そのものも、今、自己変革の時期にあります。このような大きな変革の時に、これまで40年間にわたり地質学と地質学教室の歴史を見て来られた先生が教室を去られる事は大変残念で、淋しいことですが、御退官後もどうか御健康に気を付け、ますます御元気で御活躍下さいませようお祈り致します。

## 《お 知 ら せ》

### 理学部内図書室間相互の文献複写システムについて

従来、理学部内の他教室の図書室の蔵書等を複写する場合は、その蔵書等を一旦借り出し、所属する教室等で複写をしていただいていたおりましたが、新年度（平成3年4月1日）から、理学部内のどこの図書室でも校費支弁により相互に複写していただくことが出来るようになります。

利用方法は、校費支弁に限りますので、複写申込書に予め所属する教室・講座等の会計責任者印を押印していただき、利用する図書室へ提出して下さい。

利用料金は、1枚15円です。

詳細は、各教室図書室又は理学部図書掛へお問い合わせ下さい。